

7月10日のウクライナ情報

安斎育郎



安倍元首相狙撃事件が起こったその日、yahoo ニュースを見ていた少なからぬ人々が、左のように、この事件に関する日テレ NEWS がすでに「2 日前」に投稿されていたという記事を見て、びっくりしました。

ウクライナや西欧メディアから送られてくる情報を見ていると、何がホントで何がウソか、ホントに分かりにくいので、私はどの陣営から送ってくるニュースも「ホントはウソかもしれない」と思うところから始めることにしています。

しかし、左の誤記はなぜ起きたのでしょうか？

いずれにしても、「この事件からの教訓」などと言って、緊急事態法や憲法改悪に突き進ませないよう。

銃撃テロで命を奪われた安倍元首相について、こういうタイミングのテレビ番組はこぞって故人の業績を紹介し、「負の側面」には触れない「忖度」が顕著です。「人の死に際して故人の非を論（あげつら）うようなことは不謹慎だ」という気分が、日本人には色濃くあります。内閣総理大臣として最長不倒記録（正確には途中で 1 回倒れた）の人だったとか、「三本の矢」のアベノミクスを打ち上げたとか（内容や結果の評価はしない）、自民党総裁として卓抜な党内統率力を示した…とかですが、一方では、戦前回帰的な超右翼的保守グループ「日本会議」と深い関係にあったとか、国会で平気でウソをついて、その首相のウソのために官僚もそのウソが「ホント」であるように証言せざるを得なくなって事実そのものを改竄する羽目に陥ったとか、その一環としてモリカケ問題では近畿財務局職員を自殺に追い込むような結果を招いたとか、そういったことは「故人に失礼にあたる」という自主規制のもとで言及されません…。

より危険なことは、こういう事件が起こらないようにということで戦前の治安維持法さながらの法制度づくりや、もしかすると緊急事態に際しては国の安全を守るために国民の権利を制約するような改憲が必要だといった議論に結びつく恐れがあることです。

ウクライナ問題とは直接は関係ませんが、気になったことを書きました。

【ウクライナ情報】

●ドネツクでイギリス人ジャーナリストが見たもの(2022 年 7 月 8 日投稿)

英国のジャーナリストがドネツクに到着した。ジョン・ミラーはアリーナ・リップに、彼がここで見たものについて、どれほどショックを受けたかを話した

「ここで何年もの間、民間人を殺しているのはウクライナ側であり、これは西側では報告されていない。」

A British journalist arrived in Donetsk - John Miller told Alina Lipp how shocked he was about what he saw here

"It is the Ukrainian side that has been killing civilians here for years, and this is not reported in the West."

<https://twitter.com/i/status/1545347910895820801>

（日本語字幕はありません。2 分 17 秒の動画です。ジャーナリストの真実性は感じるでしょう）

●スペイン・テレビが報じたゼレンスキー大統領の言葉(2022年7月8日投稿)

「西側諸国の大砲類がようやく機能し始めたようだ。この正確さは我々が必要としていたものだ」 — この日、ウクライナの砲撃でドネツクの子ども5人が亡くなった。



この人は、ホントに、戦争やり続ける以外に選択肢を持たないんですね。

●「ロシアに領土は渡さない」 ウクライナ・ゼレンスキー大統領(CNN、2022年7月6日)

※CNNの報道ですから、そのつもりでお読みください。

ウクライナのゼレンスキー大統領は7日、CNNのインタビューで、自国の土地をロシアに譲る気はなく、戦争を終わらせるための外交交渉に領土の譲歩は含まれないとの立場を堅持していると語った。

「ウクライナ人は自分たちの土地を手放し、これらの領土がロシアに属することを受け入れるつもりはない。これは我々の土地だ」と、ゼレンスキー氏はCNN番組「ザ・シチュエーション・ルーム」で7日に放映された独占インタビューで語った。

「我々はそれを証明するつもりだ」と同氏は付け加えた。

ロシアのウクライナとの戦争はすでに4カ月以上続いており、どちらの側もすぐに引き下がる気配はない。ウクライナの初期の抗戦により、ロシアは首都キーウ(キエフ)を攻略するという当初の目的を縮小せざるを得なくなり、ロシア軍は目下、ウクライナ東部の領土を奪うことに注力している。ロシア軍は現在、ルハンスク州の大部分を占拠し、ドネツク州の都市に圧力をかけている。

CNNは先週、米国とその同盟国がウクライナに今後提供する威力のある洗練された兵器をもってしても、開戦以来ロシアに奪われた土地をすべて取り戻すことができるという確信をホワイトハウス高官が失いつつあると報じた。

ゼレンスキー氏は、ロシアが「ルハンスク地域のほぼ全域」を支配していることを認め、ウクライナ軍は現在「この地域の郊外で戦っている」と述べた。大量の兵力損失を避けるために撤退した、と同氏は説明した。

「ロシアがそこで一体何を支配しているのか理解できない。彼らは町や学校を破壊した。彼らはがれきを占領しているのか」とゼレンスキー氏は皮肉った。

●オデッサ事件(2014年5月2日)

2014年5月2日、政権交代から数か月後。いわゆるウクライナの民族主義者の手によって、オデッサ労働組合ビルで数十人が殺害、または重度の火傷を負いました。

加害者であるネオナチたちは自由に歩き、「ウクライナ万歳！」などと叫んでいます。

<https://twitter.com/AIs of Dragoon/status/1521292134816518144?s=20&t=QGYJgrOxcmmoPjU1Uv58Ng>

●ドネツク、ルハンシクでのフレチェット弾の証拠(2022年7月8日)

ドネツク人民共和国でもルハンシク自民共和国でも、現場での科学的検証などで証拠が集められています。ドンバス在のフリー記者(10 人内外いる?)は危険を冒して国際法違反の実態を記録しています。ケリが付けば膨大な証拠が提出されるのでしょうか。ウクライナが演出した「ブチャの大虐殺」と同類のフレッシュ弾は、いったい誰が使ったのか?

<https://twitter.com/yiirobot/status/1545180034066919424?s=20&t=zXfuWLF3LVnzEBdiqnOM8g>



“私が取材中に砲撃を受けていた前線（ゴロフ力）に行った時に車のタイヤから取った「お土産」の中に、「フレシエット弾」という有名なブチャのダーツもあったので、覚えている人もいるかもしれませんね。

ロシア軍がキエフの戦線から転進した後、このダ
ーツがキエフからそれほど遠くない場所で発見さ
れた時、イタリアの新聞は非常に深刻な【戦争犯
罪の証拠】とし、明らかにロシア軍に起因すると
書いていた（その根拠には論理的説明がなされて
いなかった）

ブチャと違って、イタリアの多くのメディアを震撼させた、このゴロフカでの砲撃の原因について疑う余地はない。砲撃はウクライナ側の陣地から行われ、高齢者だけが残る居住区を攻撃しているのだ。”

ドネツク地域の北東部に位置し、炭鉱産業の町。ゴゴロフカとも。定住人口は15～18万人。炭鉱産業は1889年に発見された無煙炭鉱床で始まった。

発見されたフレスェット弾がロシア軍によるものという「自信」があれば、ウクライナ軍がもっと宣伝に使っただろう。

●ロシア国防省 ウクライナの生物学研究所に関する資料の分析結果を公表(2022年5月27日)

これはウクライナがアメリカとの関係で抱え込んでいるもう一つの問題—生物学研究所と称する軍事生物学研究プログラムがらみの研究所の存在です。ロシア軍によって押収された膨大な資料について、ロシア軍のNBC(Nuclear, Biological & Chemical Weapons、核・生物・化学兵器)防護部隊長が行なった詳細な報告です。非常に綿密な調査が行われたことが分かります。安齋はすでに1か月以上前に見ていたのですが、皆さんにも見て頂いた方が良さそうです。(13分あります)

<https://youtu.be/q4lE1K5-Ceo>

※安齋注:アメリカは生物兵器研究にはずっと以前から強い関心を持っています。安齋が最近書いた本『戦争と科学者—知的探求心と非人道性との葛藤』(かもがわ出版、2022年4月1日)では、アルフレッド・ノーベル、フリッツ・ハーバー、アルバート・アインシュタイン&レオ・シラード、石井四郎、サミュエル・コーエン、ジョセフ・ロートブラット、フォン・ブラウン、ハンス・アスペルガーなどの科学者が非人道的な兵器開発などにどう向き合ったのかを取り上げましたが、その中で、731部隊による細菌兵器開発を指導した石井四郎は、戦争終結後、アメリカにすべての細菌兵器研究の資料を提出した見返りに戦犯となることを免れました。アメリカは核大国ですが、同時に生物・化学兵器開発研究の面でも国家的なプロジェクトを推進してきた国です。

●ロシアが「制裁なしの新貿易ルート」を打ち上げ(2022年7月8日)

西欧諸国から港の使用禁止などの「制裁」を受けているので、ロシアが新ルートを開拓した。



●ドイツの大手ガス会社ユニパーが政府援助申請(2022年7月8日)

ドイツの大手ガス会社ユニパー(Uniper)がロシアからのガスの供給が減ったことで「財政状態への圧力が極限」に達し、政府援助を申請した。ロシアからのガスが6月中旬以降40%しか入らず、非常に高価な代替ガスを購入しなければならなくなったせいという。

German energy giant seeks government bailout

Uniper cites “extreme financial pressure” caused by reduced Russian gas supply



© Getty Images / Jonas Guttler

volumes at “significantly higher prices.”

One of Germany's largest publicly listed energy supply companies, Uniper, has applied for government support. The firm has referenced financial difficulties caused by a drop in the supply of natural gas from Russia as the reason for the move.

“Uniper has been hit hardest by the Russian gas curtailment and, as a result, is under extreme financial pressure,” reads the release, published on the parent company's website on Friday.

The statement goes on to say that, since mid-June, the company has received only 40% of the contracted gas volumes from Russia and has had to buy replacement

●ドネツク軍のデジャン・ベリッチ少佐の戦場報告(2022年5月14日)

- 1.ウクライナ軍がハリコフの小さな町から 4-5 日前に撤退後、イジュームは戦闘が激化している。
- 2.ネオナチは戦線を突破しようとしているが、全く成功しない。
- 3.我隊は上々だ。全部隊を投入しなくても数人で片付けられる。砲撃だけで戦う。砲撃はひっきりなしに続く。
- 4.これは第 2 フェーズの始まりだ。これ以上どんな風に戦闘が発展するのか。とにかく砲撃、砲撃が年中無休。
- 5.砲撃を開始するとネオナチは反撃してくる、そこへ空爆または高精度ミサイルが飛んでいく。1:25 ぐらいの戦力の違い。我々は25
- 6.ネオナチの軍事拠点はほぼ破壊されたため、敵の武器と人の減少を感じる
- 7.もちろんわが軍にも被害は出ている。2 日前、敵 152mm 砲により 16 人が戦死した。前線への補給部隊が座っている所に砲弾が直撃した。
- 8.それが最大の被害だ。1 日での最大のロスだった。この激化している戦闘を考えると少ないかも知れない。これは戦争だ。人々はミサイルと爆弾をぶつけ合っているのだから、ロスは驚きではない。
- 9.空白
- 10.ウクライナのニュースを読んでいる。それによると我々はネオナチにより壊滅させられたようだ。ここには 40 基の破壊された軍事機器があるんだが、我軍は写真も動画も撮る事は禁止されているからできない。
- 11.軍事機器 40 基って言うのは、我々のサプライの1%にも満たない。ここ 20 日で膨大な量の機器が到着しているから、言葉では言い表せない。
- 12.砲撃・戦車が前線に配備されると瞬く間に前線を押し上げ、歩兵が進む道を作る。
- 13.我砲撃隊はドンバスの領内で動いている。今日はマリウポリを制圧した部隊と話した。
- 14.アゾフスタル製鉄工場は完全に包囲されていて、メンテナンスモードだと言う。ただひたすら待っているのだ。食べ物と水が問題だろうから要塞から出てくるのを待つだけ。得策だ。
- 15.スパータ大隊がジョルジエックに戻ってきた。モトローラから来ている。次の戦地へ赴く。

- 16.キエフ側から来ているネオナチを分断しているが、彼らはドンバス側に流れ込もうとし、激戦地へと導かれる。そして目的は達成されず、我空軍に空爆されて終わる。
- 17.この分断作戦はドンバスからネオナチを切り離すのに効果抜群だ。この後最大の戦闘があるだろう。そしてこの紛争の終結に決定的な要素になるに違いない。
- 18.我軍の空軍は引き続き武器庫やネオナチが多くいる軍事キャンプを破壊している。
- 19.空軍の空爆と長距離高精度ミサイルは、ウクライナの深部まで届くため、カネの為に集まった海外傭兵キャンプを攻撃している。
- 20.ウクライナを応援しているからとロシア人へのヘイトがひどい。Facebook を見たら、セルビア人まで汚い事を書いたりしている。でもごく少数だ。
- 21.ヘイターは、検閲がかかっている所以で現状の把握ができないでいる。ロシアの検閲だけではなく、ウクライナで8年殺されてきた人たちの事、それにより今の紛争が起こっている事を知らない。
- 22.6万人のウクライナ兵がこの大きな戦いで戦っている。我々は先を急ぐなど言われている。
- 23.砲撃、砲撃、砲撃、昼夜問わず
- 24.ずっと砲撃にさらされていると、人々は希望と戦意を失う。それでウクライナ兵の多くが投降するのはいい事だ。死傷者が減る。
- 25.我々の前線では捕虜の確保がとても少ない。何故なら彼らには犯罪者として長い長い刑期が待っているからだ。だから彼らはドンバスで最後まで戦うと言う。でもその戦いも長くは続かない。
- 26.西から派遣されてきた軍のインストラクターはネオナチに大した指導はしていない。教えているのは十分にロシア人を嫌い、すべてはロシア人のせいだと言う事だけ。
- 27.西のインストラクターはちょっと砲弾の使い方を教えて、大量の砲弾を置いていく。。
- 28.昨日読んだニュースでは西が大量の武器を送り込んでいると書いているが、実はそんなに多くは来ない。これは非公開情報。
- 29.西が送り込む武器の置き場所は把握しているのだが、破壊するなど言われている。ジェベリンや対空砲など大量に押収した。
- 30.我々は西の武器は使わない。ものすごく貧弱だからだ。例えばソビエト時代の対戦車ミサイルの方がよっぽど強い
- 31.我軍の戦車がジェベリンを4-5発被弾した。でも戦車は普通に動いた。一発で戦車を破壊すると言われているのに。ジェベリンの強さは、物語の中だけなのかも知れない。
- 32.偵察や戦況調整に使う無人機を大量に使っている。本当に助かる。
- 33.無人機(?)は我々の数キロ先に行く。地上軍との間だけを戦闘機や戦闘ヘリが飛べる。他の場所は戦闘機は飛べない
- 34.我軍の計画はより多くの武器を破壊することであり、それにより、兵のロスが最小で済む。
- 35.私は100%確信している。私が受けている命令によると、プーチンは焦ってはならず、人命が失われるのを最小にしようとしている
- 36.真実を語ろう。戦闘開始の数日は大量の損失を出した。幹部の命令系統のミスにより500人近くが戦死した。その幹部は全員逮捕された。

【バリッチ少佐、ジャベリンとアメリカのウクライナ予算について語る】

<https://odysee.com/@Jano:7/dekica:6?r=81Z9SZJierGzJaf3tMKE5aBtS53UtSft>